

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 4月 12日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究（A）（海外学術調査）

研究期間：2009～2012

課題番号：21251008

研究課題名（和文） 中国西南地区における北方系青銅器文化の生成と展開

研究課題名（英文） The generation and development of Northern Chinese bronze culture in South-western China

研究代表者

宮本 一夫（MIYAMOTO KAZUO）

九州大学・人文科学研究院・教授

研究者番号：60174207

研究成果の概要（和文）：

東チベット地域（川西高原）の青銅器時代石棺墓文化の発掘調査やその学際的研究、さらに青銅器遺物の実測調査を通じて、東チベット青銅器文化が北方青銅器文化との地域間関係によって生成し独自に発展したことを明らかにした。そして、石棺墓社会の人々は、牧畜を主としてオオムギなどの小規模な農耕を行っていた牧畜型農耕社会民であることが明らかとなった。さらに古人骨の歯冠計測分析からは、母系社会である可能性が高まった。

研究成果の概要（英文）：

It is proved that bronze culture of Eastern Tibetan Plateau was established and independently developed by the interaction with Northern Chinese bronze culture through the excavations at stone cist burials in the Eastern Tibetan Plateau including multi-interdisciplinary research and the research of bronze artifacts. And these researches proved that the stone cist burial people had herding society relayed on the small scale of agriculture with barley. It is probable that they were maternal society.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	9,500,000	2,850,000	12,350,000
2010年度	8,200,000	2,460,000	10,660,000
2011年度	6,600,000	1,980,000	8,580,000
2012年度	6,100,000	1,830,000	7,930,000
年度			
総計	30,400,000	9,120,000	39,520,000

研究分野：人文学B

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：北方青銅器文化、中国西南地区、石棺墓

1. 研究開始当初の背景

中国西南地区の青銅器文化の生成が北方青銅器文化にあるという仮説を検証するための調査を、九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト（P&P）課題研究によって中国四川省西部の東チベット地域で2007年から始めていた。その際、四川省

炉霍県において進めていた発掘調査を、持続し発展させていく必要性があった。また、中国での発掘調査は、中国国務院の特別許可を必要とするもので、21世紀になって日本の大学では初めてかつ唯一の認可を受けた共同発掘調査であり、それを遂行する必要があった。

2. 研究の目的

童恩正が提起した辺地半月形伝播帯説に対して、研究代表者は北方青銅器文化が一方では中国東北地方へ、もう一方では中国西南部へそれぞれ別々の過程で伝播・拡散される平行現象という仮説を提起している。特に後者の伝播過程を考古資料から証明することが本研究の目的である。また、近年では Joyce White らによって、タイなど東南アジアの初期青銅器文化が中原との関係ではなく、ユーラシア草原地帯の紀元前 2000 年頃のセイマ・トゥルヴィノ文化との関係の中で生まれたと主張されてきたが、ユーラシア草原地帯と東南アジアとを結ぶルート of 解明が明らかでないために、この仮説は検証されていなかった。そこで、その中間地点である東チベット地域と中国西北部などの長城地帯の青銅器文化との直接的な関係性を証明し、北方青銅器文化の伝播経路を明らかにし、中国西南部の青銅器文化の起源が北方青銅器文化にあることを検証することが本研究の目的である。

3. 研究の方法

東チベット地域（中国四川省西部）の特異な青銅器文化である石棺墓文化のこれまで出土している青銅器を悉皆的に調査し、図面作成や写真撮影により、青銅器集成を作成する。また、これまで調査された石棺墓出土の古人骨の形質人類学的調査や歯冠計測を実施する。さらに、これまで不明であった東チベット地域の雅礮江上・中流域の石棺墓の発掘調査をすすめ、新たな発見と資料を確保する。とともに、そうした発掘調査だけではなく、形質人類学・動物考古学・植物考古学・冶金学などの様々な研究分野を動員した学際的研究を行うことにより、本地域の青銅器文化の実態を多角的に追究する。そして、新たな発掘調査とこれまでの調査資料を総合化した学際的調査により、北方青銅器文化の系譜の中に中国西南部の青銅器文化が生成・発展したことを検証するとともに、そのような文化伝播のプロセスや人の動きを明らかにしていく。

4. 研究成果

2008 年の四川省炉霍県宴爾龍石棺墓地では 15 基の石棺墓（図 1）を、2009 年の炉霍県呷拉宗石棺墓地では 15 基の石棺墓を発掘調査し、古人骨とともに青銅器などの副葬品を発見した。これらの青銅器の内、銅戈（図 2）は商代併行期、銅鏡（図 3）は西周併行期の特徴を示すもので、時期が不明であった本地域の初現期の相対編年を確立することができた。さらに併せて発掘調査した製鉄遺構は、紀元後 6 世紀後半～7 世紀前半の吐蕃初期の

ものであり、構造も中原社会にないものであり、南アジアのとの関係を考えることができる画期的な発見であった。また、2010 年には雅江県脚泥堡 1 号石棺墓や湾地溝石棺墓の整理調査を行い、本地域の土器（図 4）編年上の貴重な基準資料を得ることができた。また、出土した銅剣や銅戈は、本地域の独特な山地形格銅剣の祖型を示すとともに、銅戈は巴蜀式銅戈の出現過程を知る上で貴重な資料となった。なお、2011 年には雅江県本家地遺跡の発掘調査を行い、吐蕃末期の祭祀用堅穴住居や中世チベット時期の石棺墓・建物址を発掘調査し、本地域ではこれまで全く不明であった古代・中世の考古学資料を得ることができた。そして、2011 年と 2012 年には既存の青銅器資料の悉皆的な遺物実測調査を行い、これまで当該地域では存在しなかった青銅

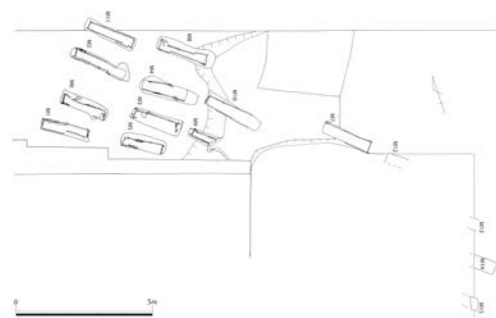


図 1 宴爾龍石棺墓地の墓葬配置



図 2 宴爾龍 8 号墓出土銅戈



図 3 呷拉宗 15 号墓出土銅鏡



図4 呷拉宗8号墓出土双耳壺

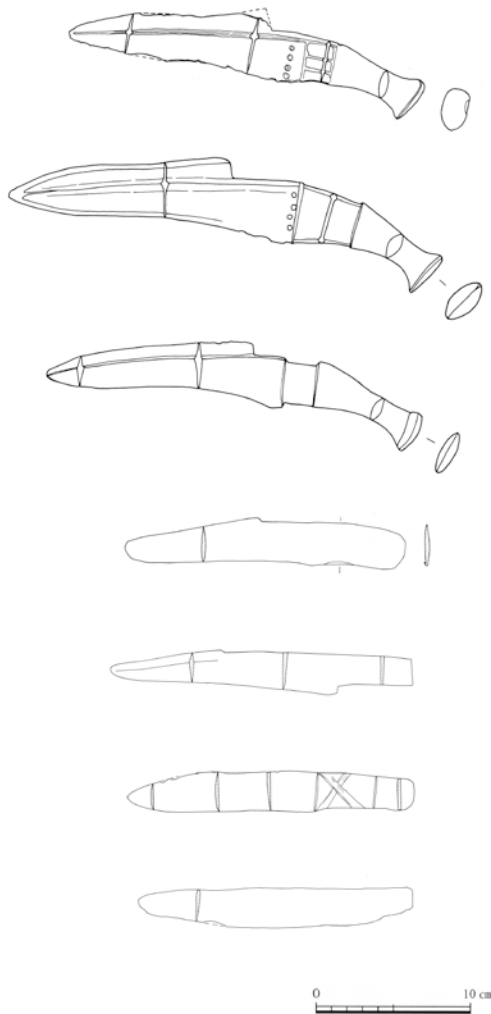


図5 川西高原式銅戈の変遷

器遺物集成を完成することができ、中国考古学界に貢献することができた。本地域で発掘調査ならびに再調査した遺跡の内、卡莎湖A、宴爾龍、卡莎湖B、呷拉宗、脚泥堡の相対的な順番を、墓葬構造の変遷や副葬遺物の型式学的検討から明らかにした。さらに、墓地出土の古人骨や炭化物の放射性炭素年代か

ら、これらの遺跡が前15～13世紀に遡ることが明らかとなった。これまで本地域の石棺墓はせいぜい前8～7世紀にしか遡らないとされていたが、これにより新石器文化と青銅器文化の空白期を埋めることができた。さらに、この段階の卡莎湖Aには有蓋戈やカラスク銅剣が変化した川西高原式銅戈(図5)が存在し、青銅器遺物が北方青銅器文化の系統にあることが明らかである。また、石棺墓自身も中国西北部の新石器末期における伝播現象の中で東チベットに出現・発展したことが明らかとなった。そして、これら調査した遺跡が前15～7世紀のものであり、本地域や雲南石寨山文化に典型的である山字格形銅剣の出現以前のものであることが明らかとなったのである。山字格形銅剣そのものが、北方青銅器文化のカラスク銅剣の影響によって成立したことが明らかとなった。

以上の研究結果から、童恩正の辺地半月形文化伝播帯説に対抗して提起した新しい仮説を検証することが可能となった。さらに、中国西南部や東南アジアの青銅器の生成に、北方青銅器文化が関与している可能性が高まったのである。

また、形質人類学など他分野による学際的な研究を行うことにより、文化的な影響関係だけではなく人の移動の問題にも踏み込むことができた。さらに生業の復原も可能となり、性別分業が重視され、男性が主に牧畜に従事し、女性がオオムギ栽培などの小規模な農耕と紡織に携わっていた等質的な社会であった。また、母系社会であった可能性が歯冠計測によって示された。

この他、発掘調査の過程で偶然に発見された吐蕃初期の製鉄遺構、中世チベット時期の祭祀遺構、近世チベット期のラマ寺院址などの検討により、東チベットにおける先史社会から古代国家が形成される過程を明らかにすることができ、これまでにない歴史的復原が可能となった。それは、日本を含めた東アジアにおける東北アジアと中国西南部における併行現象として理解できるものであり、これまでにない重要な歴史観を得るに至った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5件)

- ① 四川省文物考古研究院・日本九州大学ほか、四川炉霍県宴爾龍石棺墓墓地発掘簡報、四川文物、2012年第3期、査読無、2012、3-14、DOI及びURLなし
- ② 四川省文物考古研究院・日本九州大学ほか、四川炉霍県呷拉宗遺址発掘簡報、四川文物、2012年第3期、査読無、2012、

- 15-28、DOI 及び URL なし
- ③ 四川省文物考古研究院・日本九州大学ほか、四川雅江県呷拉遺址発掘簡報、四川文物、2012年第3期、査読無、2012、29-36、DOI 及び URL なし
 - ④ 宮本一夫、中国川西高原・洱海系青銅器の変遷、史淵、査読無、2010、1-28、DOI 及び URL なし
 - ⑤ 宮本一夫、川西高原石棺墓の構造と変遷、中国考古学、査読有、2009、91-110、DOI 及び URL なし

[学会発表] (計 6 件)

- ① Kazuo Miyamoto, The Emergence and Chronology of Bronzes on the Tibetan Plateau of Sichuan province, "Reconsidering the Crescent-Shaped Exchange Belt - Methodology, Theoretical and Material Concerns of Long-Distance interactions in East Asia Thirty Years after Tong Enzheng", Society for East Asian Archaeology 5th World Conference. Fukuoka, Japan, 2012, June, 8th
- ② 宮本一夫、中国川西高原石棺墓文化的研究、「中日共同開展西南地区北方譜系青銅器及石棺葬研究合作」学術研討会、中国成都市凱賓斯基副樓、2011年9月2日、中国
- ③ 宮本一夫・田中良之・中橋孝博・高宮広土・高大倫・唐飛・陳衛東、中国川西高原石棺墓文化の研究、日本考古学協会考古学協会第77回総会、國學院大學、2011年5月29日
- ④ 宮本一夫、四川省炉霍県呷拉宗製鉄遺構の調査、国際ワークショップ「東アジア青銅器・初期鉄器時代の諸問題」、九州大学、2009年12月20日
- ⑤ 宮本一夫、四川省炉霍県晏爾龍・呷拉宗石棺墓地、国際ワークショップ「東アジア青銅器・初期鉄器時代の諸問題」、九州大学、2009年12月19日
- ⑥ 宮本一夫・高大倫・唐飛・金国倫、中国四川省晏爾龍石棺墓地の発掘調査、日本考古学協会第75回総会、早稲田大学、2009年5月31日

[図書] (計 1 件)

宮本一夫・中橋孝博・田中良之・川本芳昭・高宮広土・高大倫ほか、中国書店、東チベットの先史時代 四川省チベット自治州における日中共同発掘調査の記録、2013、454

[その他]

ホームページ等

<http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/~kouko/sisenseikahoukokuhyoushi.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮本 一夫 (MIYAMOTO KAZUO)
九州大学・人文科学研究院・教授
研究者番号：60174207

(2) 研究分担者

辻田 淳一郎 (TSUJITA JUNICHIROU)
九州大学・人文科学研究院・准教授
研究者番号：50372751
川本 芳昭 (KAWAMOTO YOSHIKI)
九州大学・人文科学研究院・教授
研究者番号：20136401
中橋 孝博 (NAKASHI TAKAHIRO)
九州大学・比較社会文化研究院・教授
研究者番号：20108723
田中 良之 (TANAKA YOSHIYUKI)
九州大学・比較社会研究院・教授
研究者番号：50128047
高宮 広土 (TAKAMIY HIROTO)
札幌大学・文化学部・教授
研究者番号：40258752

(3) 連携研究者

なし
研究者番号：